

そらんぽへ行こう

☎ 博物館・プラネタリウム (TEL) 355-2700 (FAX) 355-2704

銀河鉄道で夏の夜空を旅しよう

夏の夜空に広がる天の川を舞台とした、宮沢賢治の有名な物語「銀河鉄道の夜」には、さまざまな夏の星や星座が登場します。

物語の旅の中で最初に訪れたのは、はくちょう座。天の川とクロスするように羽を広げ、優雅に飛んでいるように見える星座です。「アルビレオの観測所」として登場した二重星は、はくちょう座のくちばしに当たる二つの星で、望遠鏡で見ると青色と黄色の星が並んで輝いています。宮沢賢治はこれを、宝石のサファイアとトパーズに例えました。



©ステラナビゲータ12で作成

次に「鷲の停車場」として登場するのは、わし座。さらに、「さそりの火」と称されたのは、天の川を下った先にあるさそり座の一等星アンタレス。物語の中でみんなの幸いを願ったサソリは、真っ赤な火のように夏の夜空を照らしてくれています。

当館では8月12日に伊坂ダムで夏の星空観望会を開催します。物語に出てくる星のほか今年は月明かりがあり条件は悪いですが、ペルセウス座流星群が見えるかもしれません。

文化財さんぽ

☎ 文化課 (TEL) 354-8238 (FAX) 354-4873

地下に眠る中川原・芝田の遺跡を 探訪する

近鉄湯の山線沿線にはいくつかの遺跡があることをご存じでしょうか。中川原駅の北東には「宮の西遺跡」、市立病院の辺りには「小判田遺跡」があります。古代から中世を中心とした遺跡で、過去に実施した発掘調査では、土器類や石器類のほか木製品が多く出土しました。

遺跡を特徴づける発掘調査の成果の一つに、木簡があります。出土した木簡は状態が良く、墨で文字が書かれていることが確認できました。特に宮の西遺跡からは「柴田郷長右□□」と書かれた木簡が出土しており、「柴田郷」と



昭和63年「宮の西遺跡」の発掘調査（中川原）



宮の西遺跡
木簡

いう古代の伊勢国三重郡の郷名が記されています。この木簡からは、この地が「柴田郷」の中心的な集落であった可能性が考えられるほか、現在の地名「芝田」の由来であることも推測されます。

これまでの発掘調査では、集落の様子分かる建物跡などの遺構は発見されていませんが、地下に眠る四日市の歴史に思いを巡らせながら、周辺を散策してみてもいかがでしょうか。日常の見慣れた光景も、少し見え方が変わってくるかもしれません。